

今年度の愛知県高校入試 A・B 日程は、昨年に引き続き思考力が問われる傾向の強いものとなりました。また、今年度は昨年度以上に教科横断的な傾向が強くなっています。

単語や熟語の知識が重要なのは言うまでもありませんが、教科書の中では非常に小さな扱いとなっている単語・熟語も頻出するため、特に長文ではわからない言葉や表現が出てきても文脈から判断することが必要となる場合が多くなります。What is a future elevator like? (A 日程大問3 最終段落3行目) のような、基本的な文法事項だけではスムーズに読み解きづらいような表現も散見されました。昨年度と比べて量も増えているため、日頃から英語の文章に積極的に触れ、長い文章を読解することに慣れておく必要があります。また、長文を解く際にそれが説明している状況や時系列を正確に把握することが解答の鍵となる問題も多く見られました。

思考力が必要とされるのはリスニング問題でも同じです。昨年度から出題に含まれるようになった Where are they? という問いは、(直接的に語られていない) 話者の置かれた状況を全体の内容から判断しなければならない問題となっており、高校入試において思考力重視の出題が志向されている一例といえるでしょう。

また、今回の入試では教科横断的な出題も見られました。英作文の問題では今年度からグラフを見て解答するという、数学の内容と関連するような問題となりました。そして B 日程の大問3はビンセント・バン・ゴッホと宮沢賢治の生涯について説明している文章で、国語や社会といった他教科の教養が豊かであればそれだけ解きやすい問題となっています。文部科学省は教科横断的な英語教育を重視しており、来年度以降もこうした出題の傾向が続く可能性があります。今回 A 日程は B 日程ほど教科横断的ではありませんでしたが、来年度からは両日程共、他教科の知識が解答の助けとなる問題が出題されるかもしれません。

#### A 日程

大問3(5): 力の Some researchers and engineers have made elevators and escalators better. は、最終段落1行目の Thanks to researchers and mechanical engineers, elevators and escalators have improved a lot. から正解であると判断できます。しかし、文中の thanks to ~ (~のおかげで) は準拠となっている教科書巻末の単語集には記載されておらず、Thanks や Thank you といったすでに習った内容から推察しなければならないという、思考力が問われる問題でした。

#### B 日程

大問3(5): ウの Vincent van Gogh never changed his painting ways so he got sick again. は、第2段落5行目 So his painting style changed and his works got brighter, ... の文頭の So が直前の文 (In France he met a lot of painters and he was influenced by them.) を受けたその結果を示す意味であることに気づけば、誤りであると判断できます。

## ●難易度●

総合的には、A・B両日程ともに、昨年と同程度の難易度とみられます。B日程よりもA日程のほうが、図形問題がやや難しくなっていました。

## ●問題構成●

昨年度と同様、大問数は3つ、小問数は19問出題されました。配点も昨年と同様に、19問のうち3問が2点、16問が1点で、22点満点となっています。

## ●出題内容(領域別)●

- ・〔数と式〕……………大問1の問題は基本的なものばかりであり、速く正確に答えを導くことが重要です。また、B日程の大問2では、自然数を与えられた規則に従って連続的に計算する設定の問題が出題されました。プログラミング教育を意識したような、思考力を必要とする問題であり、戸惑った受験生も多かったのではないかと思います。
- ・〔方程式〕……………例年通り、一次方程式か連立方程式を利用する文章題が出題されました。
- ・〔関数〕……………座標平面上で関数のグラフと図形を結びつけて考える問題が例年出題されていますが、今年度はA・B日程とも、図形の面積をもとに点の座標を問う標準的な問題でした。また、一次関数の利用の問題の中ではグラフをかく問題が毎年出題されており、A日程では時間と距離、B日程では容器内の水の高さが題材となっていました。
- ・〔確率〕……………B日程では、さいころで出た目の約数のカードを取り除くやや難しい設定の問題が出題され、答えを出すのに時間を要するものでした。
- ・〔資料の活用〕…度数分布表やヒストグラムから平均値・中央値・最頻値などを求める問題は頻出であり、今年度はA日程で、度数分布表から代表値を求めて文章中の空欄を補充する問題が出題されました。
- ・〔図形〕……………角度を求める問題や、長さ・面積・体積などを求める問題が毎年出題されており、角度の問題は確実に得点しておきたいところです。一方、A日程では3点を通る円の面積の問題や、点と平面との距離の問題が出題され、相似、三平方の定理、円周角の定理を使いこなすことが求められる難問でした。

## ●難易度●

例年とあまり大きな変化はありませんでした。A日程の題材文の文字量がB日程と比べて多かったこと、A日程の要約問題の指定字数が多かったことなどから、B日程よりもA日程のほうが、難易度はやや高くなっていました。

## ●問題構成●

A日程・B日程ともに形式・配点などには大きな変化はありませんでした。

## ●出題傾向●

A日程大問三(一)：本文中の空欄に補充する慣用句と、その慣用句の意味を選択する完答問題が出題されました。本文の文脈を理解する読解力と知識の両方を問う問題でした。

A日程大問三(二)：記述問題では、例年通り段落の要約問題が出題されました。指定字数は例年、60～80字程度ですが、今年度のA日程では平成27年度以来となる80～90字の指定でした。要約箇所も広範囲にわたったため、やや難度の高いものでした。出題の意図をしっかりと把握し、指定語句を本文中から探し出して、その前後の文をうまくつなげばよいので、同じ形式の問題などを解いて練習しておくといよいでしょう。

B日程大問一(六)：新傾向の問題として、本文に対する生徒の感想文中に脱文を補充する問題が出題されました。本文をきちんと理解したうえで、言い換えられた表現でも主旨を把握できているかどうか、文脈を読み取れるかどうか、ポイントとなる問題でした。

B日程大問二③：漢字の問題は例年通りの難易度でしたが、ことわざの空欄を補充する問題が出題されました。A日程の現代文の問題でも慣用句の意味を問う問題が出題されたので、主なことわざや、慣用句、四字熟語や三字熟語などは、意味や使い方を頭に入れておきましょう。

B日程大問四(一)：正答をすべて選ぶ完答問題が出題されましたが、難度はそれほど高いものではありませんでした。

## ●難易度●

A・B日程共に難易度としては標準でした。A日程よりはB日程の方がやや難易度が上がりましたが、いずれにせよA・B日程共に昨年度より難易度は低く設定されていました。

特筆すべき日程はB日程で、実験や観察の内容など、問題設定を理解するのにやや手間取るような出題がありました(大問2, 4, 5)。ただし、解き方自体はさほど難しい問題ではなかったため、何を問われているかを見極めることが重要です。

## ●問題構成●

大問6問、小問合計20問の構成で、配点が倍の問題が2問ずつ出題される例年通りの構成でした。今年度は短文記述問題の出題がありませんでした。

## 〈選択問題〉

例年通り、ア・イ・ウ・エ……の記号から正答を選ぶ問題形式が多く出題されましたが、4択は各2問程度と少なめでした。組み合わせの選択問題が多く、6択や8択の中から、2つ、3つを選んで答える完答問題の出題が各5問程度ありました。選択肢の最大数は12択で、A・B日程共に1問ずつ出題されました。

## 〈作図問題〉

A・B日程共にグラフの作図問題が出題されました。実験の問題設定をよく把握し、問題文中の実験結果の表を踏まえて考えれば、さほど難問ではありません。

## ●新傾向(B日程)●

大問4(2年物理)では、指導要領にない「電熱線の抵抗の値が、電熱線の長さに比例する」ことを念頭に置いた出題がされました。ただし、問題文中のグラフから前述の内容が読み取れるようになっています。(4)で、輪状にした電熱線の途中に端子を接続した装置＝並列回路であると見抜くには、ある程度の柔軟性が必要となります。

また、大問1(1)では、「物体が同じ大きさの仕事をされた場合、物体の質量が大きいほど、移動の速さが遅くなること」を理解していないと解けない問題が出題されました。

ほか、大問5のハワイ諸島をからめた問題も見慣れない図や表でしたが、目先の目新しさに惑わされず、問いの内容を正確に把握することで対応できます。

## ●出題傾向●

## 〈資料〉

昨年度から、教科書や資料集で見かけない資料を使った問題が出されています。その多くは教科書に書かれたことがらを知っているだけでは解けない、問題文や資料の理解の上に、思考力・判断力・表現力が試される問題となっています。今年度は歴史・地理・公民の全分野にわたって教科書や資料集で見かけない資料が使われました。

- ・ A日程大問3は、複数の資料を読み取る問題でした。複雑な資料ではありませんが、判断を誤ると正解できない問題でした。
- ・ B日程大問4(1)は、地図とその地図をもとに述べた文があり、文中の空欄にあてはまる地図中の記号を答える問題でした。地図と文から地球儀のように立体的なイメージで考える問題でした。教科書や資料集で見かけない資料を使った問題でも、教科書をきちんと学習していれば解けます。

## 〈短文記述〉

2017年以降短文記述問題が出されるようになりました。例年の短文記述問題は、用いる語や字数が指定されています。

2020年のA日程では、問題文中にある歴史遺産の説明の中から抜き出して書く問題が出され、B日程では、指定された二つの語を順番に用いて書く問題が出されました。

## 〈完答問題〉

2017年以降、符号とことばの両方を答える問題、4つのうち当てはまるものを2つ答える問題、文章中の4つの空欄に当てはまる符号やことばを全て答える問題が出されています。

## 〈地形図〉

2017年以降、毎年A・B日程のどちらかで出題されています。2020年には、同じ地域の新・旧の地形図を見比べ、旧地形図にあった地図記号のうち、新地形図ではなくなっているものを書く問題が出されました。